# 建設産業委員会

## 今定例会の審査結果

今定例会では補正予算5件、陳情1件について担当課より詳細な説明と意見を求め慎重に審査しました。

「花月楼保存に関する陳情書」については、引き続き調査検討を行いたいため継続審査としました。

## 砂留花用水について

9月定例会において草木伐採等の整備について陳情書の提出があり、審査の結果、採択されていました。今定例会では、採択後に担当課で行った整備等についての報告、及び来年度以降の維持管理のあり方について説明がありました。

委員会では、整備後の11月中に現地調査を行っており、その結果を踏まえた活発な意見交換がされ、今後の維持管理や整備について意見を述べました。

## 下水道施設の長寿命化計画について

下水道施設は、昭和の時代に整備されてきたものが多く、老朽化が進んできており、将来に向けて長く、安全に施設を利用していくためにも、長寿命化計画を策定し計画に基づいた整備を行っていく説明がありました。

管路の長寿命化については、今後、実態調査を行った上で、長寿命化計画を策定し、その後、長寿命化工事を順次行う予定とのことでした。

委員会では、浄化センター建設時とは、人口や生活スタイルが変わっているため、現在の人口規模に合わせ無駄な投資をしないことなど、精査しながら計画をたてるよう意見が出されました。また道路の開削を行う場合には、道路舗装修繕などと調整して、効率的な工事を行うよう求めました。

勝山浄化センターについても、供用開始から20年以上経過し、電気設備などが老朽化してきています。そのため、平成25年度より4カ年計画で、中央監視設備などの電気設備、汚泥処理設備などの機械設備や建物などに約8億3千万円を投資し、整備を進める予定とのことでした。

## 行政視察

当委員会では、10月に北海道方面へ中心市街地活性化、農産物を活用したまちづくり・誘客事業、道の駅について視察を行いました。

### ○滝川市の「菜の花」によるまちづくり

滝川市では平成元年度より、畑作地帯の連作障害回避の作物としてナタネの作付けが始まりました。現在、ナタネはバイオマスエネルギーや観光用景観作物としての利用を行っており、地産地消、食育、観光誘客等の取り組みを地域で行っているとのことでした。

ナタネの景観作物としての活用としては、6月上旬頃に、ナタネ生産者、JA、市役所が中心となって「菜の花まつり」を開催、平成24年度は6万人の観光客が訪れており、6次産業化を進めているとのことでした。

### ○富良野市の市街地活性化

富良野市は、年間200万人の観光客が訪れる北海道の代表的な観光地ですが、観光名所は郊外で、市街地は疲弊してきています。そのような折に市街地にあった総合病院の老朽化による駅裏への移転に伴い、病院跡地の有効活用による市街地活性化の気運が一気に盛り上がったとのことでした。

当初、病院跡地には「道の駅」という要望がありましたが、道の駅では24時間利用できるトイレの設置など経費の問題等や、市街地への広がりがなくなってしまう恐れなどの問題があり、そのため、道の駅とはせずに、市街地回遊の仕掛けの入口として「フラノ・マルシェ」が建設されたとのことです。

このフラノ・マルシェの平成23年度の来場者数は66万人、売り上げは5億3千万円となっています。施設内には飲食店はないため、飲食など周辺への2次波及効果は10億円とも言われており、地元経済への効果は大きいとのことでした。

フラノ・マルシェは、当初の計画の段階から、行政に頼るのでなく民間主導で議論を重ねてきており、現在も地元民間主導で事業等を行っているとのことで、このことが成功の大きなカギと思われました。

フラノ・マルシェでの説明

「道の駅 花ロードえにわ」